

職業実践的 IT・デジタル人材の育成

AIに使われる側ではなく、使う側に立てる人材を育成します。

- ✓ 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けています。
- ✓ 「専門士」の卒業資格を取得できます。
- ✓ 教育の質保証の一環として、外部審査(第三者評価)を毎年受けています。
- ✓ 教育成果は情報公開しています。
- ✓ 「留学生受入れ適正校」として出入国在留管理庁から選定されています。

ルールやプロセスに従う仕事はAIに置き換わり、
ルールやプロセスを創造する次のような仕事は

- ▶ アルゴリズムを開発する。
- ▶ 複雑なプログラムを制作する。
- ▶ プロセスを設計する。
- ▶ 顧客ニーズに合うシステムを構築する。
- ▶ 感情に訴えるデザインを描く。

出来上がりの良し悪しを
機械的に判断しにくいため、
AIに置き換わりにくいのです。



学校構成

さまざまな活躍の可能性が広がり、社会から必要とされている人材を育成します。
目指す職種によって選べる6学科。卒業時には「専門士」の称号が付与されます。

プログラマ、システムエンジニアを目指す方	IT・ゲームソフト科	2年制/全日制	15 ページ
	グローバルITシステム科(留学生)	2年制/全日制	27 ページ
	ITライセンス科(通信制)	2年制/通信制	35 ページ
データ分析エンジニアを目指す方	AI・データサイエンス科	2年制/全日制	19 ページ
デジタルビジネスデザイナーを目指す方	デジタルビジネスデザイン科(2024年新設)	2年制/全日制	23 ページ
ITに強いオフィススタッフ、 リテールビジネススタッフを目指す方	グローバルITビジネス科(留学生)	2年制/午前 午後	31 ページ

教育方針

▶ 地育地活

- 地元横浜をはじめ神奈川県内で活躍できる人材を育成します。
- 地域で求められる人材になれば、東京をはじめ全国どこでも通用します。

▶ 時代のニーズを取り入れた実践的教育カリキュラムを取り入れています。

▶ 専門分野の実務経験豊富な指導者と実務家指導者による実践的教育を行います。

▶ 実践力と主体性を兼ね備えた人材を育成します。

- プログラマ、システムエンジニア
- データ分析エンジニア
- デジタルビジネスデザイナー
- ITに強いオフィススタッフ

▶ アクティブラーニング、グループワーク、学校行事、コンテストチャレンジなどを活用して良好なチームワークづくりやコミュニケーション能力に磨きをかけた人材を育成します。



教育目標

求められるIT・デジタルスキルとコミュニケーションスキルを向上させ、企業のニーズに応えられる創造力が豊かで実践的なIT・デジタル人材を育成します。

- ▶ 明確な教育方針・目標により学修意欲の向上を図ります。
- ▶ 快適に使える学修環境を活かします。
- ▶ コミュニケーションスキルを磨くさまざまな機会を設けます。
- ▶ 教員と学生との信頼関係を大切にします。
- ▶ 目指す検定試験合格者に対する成績の再評価制度があります。
- ▶ 就職支援体制の充実により、就職保証を目指します。
- ▶ 学生の交流と多様な学びの場としてラーニングコモンズがあります。
- ▶ 学修内容を自信をもって語れるような授業を行います。



教育体制

▶ 4学期制

- 同時並行で進める科目を減らし、集中的に学べます。
- 各学期は9週からなり、7週目まで通常授業、8週目は定期試験、9週目は振り返り授業を行います。
- 各週の授業ではオンラインによる理解度テスト・自動採点を行い、続く授業ではその結果を踏まえて、フォローをしながら進めます。

▶ 少人数制

- 一クラス20名前後のため、学生と教員の距離が近く、発言できる機会が増えます。
- アクティブラーニングやグループワークの充実に努めます。

▶ クラス担任制

- きめ細かな担任指導を行います。

▶ 教科担当制

- 実務経験豊富な教員により分かりやすい授業を楽しみながら学べます。

▶ 学修環境の快適化

- 快適に学べる学修環境を用意しています。

▶ 産学連携

- 産学連携企業の方より提供される課題にグループで取り組み、実践的スキルを身につけていただきます。



授業の進め方

習熟目標・到達目標の達成に向けて授業を行います。

	1年次	2年次
育成目標	習熟目標達成 ▶ 専門基礎力・応用力の育成 ▶ 目標資格の取得	到達目標達成 ▶ 専門活用力・実践力の育成 ▶ 就職内定獲得
授業方法	アクティブラーニングによる講義・演習・実習	アクティブラーニングによる講義・演習・産学連携実習・コンテストチャレンジ・卒業制作
就職支援	就職基本指導・就職活動準備	就職活動支援・就職内定獲得

- 専門知識や専門スキルの基本がしっかり身につくように、アクティブラーニングを随所に取り入れます。
- 講義系授業はオンラインによる自動採点により、理解度・習熟度を確認しながら進めます。
- 国家試験や検定試験に挑戦していただき、やればできる自分に自信と達成感を持っていただきます。
- IT業界団体等が主催する学生ITコンテスト等へのチャレンジを通して、主体性を育み、柔軟な発想力、豊かな創造力を育みます。
- 2年間の学業成果を彩る卒業制作では、YSEフェスタに展示・実演する作品作りにグループで取り組みます。
- 非常時には、ハイブリッドで自宅から授業が受講できます。

理数系科目に自信がなくても大丈夫です！

ITは理系でないといけないのではないかと先入観を持っている方を多く見かけますが、そんなことはありません。大切なのは、興味・やる気さえあれば大丈夫です。昨今は、国を挙げて、ITリテラシーやDXリテラシーを身につけ、業務分析や業務改革に携われる人材育成の加速に向けてその旗振りをしています。数学が必要な場面に遭遇したら、その時復習すれば大丈夫です。分かりやすい教材はあふれています。



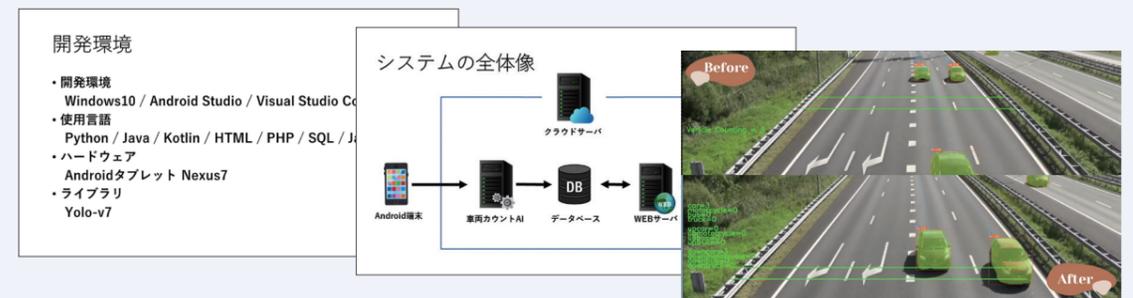
産学連携

▶ 企業と連携して実用的なAIシステムを開発

企業と連携して、自動で交通量を調査するAIシステム「Street Traffic Log」を開発しました。

交通量の調査は、現在人手で行われており、頻度や精度に課題があります。新規出店や開業、都市計画・不動産開発、広告の効果・イベントの集客効果の予測や道路の修繕計画など交通量のデータは様々な場面で必要とされています。そこで私たちはAIを用いた交通量調査システムを提案し、企業とコラボして開発しました。

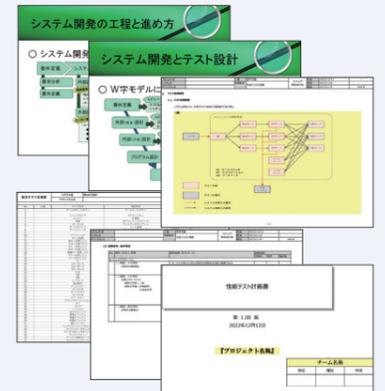
ネットワーク接続機能を持ったカメラモジュールを利用して道路を撮影し、リアルタイムに映像を配信して、クラウドでAIによる車両カウントを行います。また、計測した交通量をリアルタイムに確認できるWebサイトを作成して、調査結果を分かりやすく提示します。調査に利用するカメラモジュールとして、Android端末を利用します。ネットワーク接続機能を持ち、安価なことから実験システムを作成するのに便利と考えました。カメラモジュールは道路の高い位置から見下ろすように設置します。カメラで道路の映像を撮影し、クラウド上にある車両カウントAIに向けてストリーミング配信します。これにより、車両をリアルタイムでカウントできるようになりました。



▶ 企業と連携して高品質なソフトウェアを開発

プログラミングを行う上で最も重要なことは、「正しく「仕様書の通りに」動くプログラムを書く」ことです。仕様書の通りにプログラムを書くためには、どのようにすれば良いか？私たちは企業と連携し、W字モデルによるシステム開発とテスト設計を実践することで「正しく動く」ソフトウェア開発手法の学修を授業に取り入れています。私生活の中でITの活用が当たり前になっている昨今、ソフトウェアを安全に正しく動作させることがとても重要視されてきています。

産学連携授業では、卒業制作作品を対象に「テスト設計～テスト実施～評価」を実践することで、ソフトウェア品質管理スキルも身につけています。



▶ 企業と連携して学生作品をブラッシュアップ！

企業からの指導やアドバイスにより、学生が考案したコンテスト作品や卒業制作作品を更に高機能化、高品質に仕上げます。ソフトウェアの基本設計からテスト設計まで、企業から実践的な指導を受け、学生の作品を世の中のニーズに合わせた利便性が高く、更に、正確で安全性のあるハイクオリティなソフトウェアにブラッシュアップさせていきます。

